

いせはらしし つうしへん

＃12 伊勢原市史 通史編 1－3

作者：伊勢原市史編集委員会（いせはらししへんしゅうい  
んかい）

刊行：平成7年（1995）－平成27年（2015）



📖 解題

■ 内容

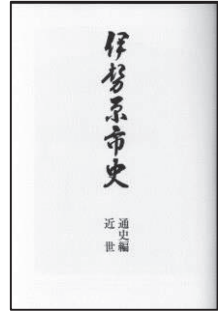
『伊勢原市史 通史編 1』は、先縄文から後北条氏の終焉までを対象としている。また、近世までの彫刻・絵画も解説している。さらに『資料編 古代・中世』に未収録の資料も載せている。「第二章 先史時代」には、大山山頂から縄文時代の土器片が出土していること、

「第三章 古代」には、922年の『延喜式』に阿夫利神社の記載があること、また、東大寺別当の良弁が

大山寺を開山していることが記載されている。「第四章 中世」では、元暦元年（1184）に源頼朝が土地を寄進、建久3年（1192）に北条政子が馬を奉納するなど、鎌倉幕府と大山寺の関係が強まり、続いて室町幕府がそれを継承し、観応3年（1352）に足利尊氏が、応永29年（1422）に足利持氏が大山寺へ土地を寄進していることが記載されている。「彫刻・絵画編」では、大山寺の本尊である鉄造不動三尊像（鎌倉時代）について解説されており、日本で「鉄仏」は非常に珍しい、としている。

『伊勢原市史 通史編 2』は江戸時代を対象とし、市域全体の通史と文化が書かれた「第Ⅰ部 歴史編」と、33ヶ村の概要が書かれた「第Ⅱ部 地誌編」に分かれ、第Ⅲ部に『資料編 近世』未収録の資料を載せている。

本書で大山に関連が深いのは、第Ⅰ部の「第七章 江戸文化と大山・伊勢原」で、大山を題材にした滑稽本・浄瑠璃・歌舞伎・落語・浮世絵・落語・



[K21.64/7/1-1~1-3]

## 第2章 歴史

能・狂言などについて書かれている。また大山街道についても解説している。徳川家康は、大山から修験者を下山させ、大山を真言密教研鑽の道場とした。

『伊勢原市史 通史編 3』は「第Ⅰ編 近代」、「第Ⅱ編 現代」、「別編」に分かれ、大山の歴史は「別編」の「一 近現代の大山」に纏められている。

明治に入ると神仏分離令により、大山寺は現在の場所に移され、大山寺跡地に阿夫利神社下社が築かれた。阿夫利神社氏祠官の権田直助(1809-1887)は、倭舞・巫子舞の導入や大山講の再編、強化を行った。大正12年(1923)に大山は、関東大震災に伴う山津波で甚大な被害を受けている。

### ■ 作者

『伊勢原市史 通史編 1』の監修を行った貫達人(1917-2009)は、文京区に生まれた。東京帝国大学文学部を卒業後、青山学院大学教授、鎌倉国宝館長等を歴任した。執筆当時は、青山学院大学名誉教授である。

『伊勢原市史 通史編 1』で大山の仏像について執筆した清水眞澄は、昭和14年(1939)、横浜市に生まれた。昭和37年(1962)東北大学文学部を卒業し、現在、三井記念美術館館長、成城大学名誉教授を務める。執筆当時は、成城大学短期大学部長である。

『伊勢原市史 通史編 2』で近世分科会座長、『伊勢原市史 通史編 3』で編集委員長を務めた鈴木良明は、昭和21年(1946)、藤沢市に生まれた。國學院大學史学科卒業後、神奈川県立金沢文庫長を経て、現在、鎌倉国宝館館長。藤沢市文化財保護委員会委員長、伊勢原市文化財保護審議会会長。

### 参考文献

『島山重忠』貫達人著 吉川弘文館 1962 [289.1/493]

『鎌倉の仏像文化』清水眞澄著 岩波書店 1985 [K71.4/42] [718/58]

『近世仏教と勸化』鈴木良明著 岩田書院 1996 [K18/133] [182.1/22]

『鶴岡八幡宮寺』貫達人著 有隣堂 1996 [K17.4/53]

『仏像の顔』清水眞澄著 岩波書店 2013 [718/235]